

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

August 2020 vol.76

August						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

◆ 豊橋・田原地震探索ドライブルート

今月は、宝永4（1707）年の宝永地震、安政元（1854）年の安政東海地震など、東三河地域に被害をもたらした地震にまつわる碑や史跡と周辺の名所を巡るドライブルートを紹介します。豊橋市街から太平洋岸を経て、田原市街に至る、8つの碑や史跡を巡る総延長約40kmのルートです。

出発地は、先月号で紹介した**吉田城**（地図①）です。吉田城は宝永地震で大きな被害を受け、本丸御殿、二の丸御殿が大破、櫓や楼門など、その他の建築物も大破し、池田輝政が構築した石垣の上に建てられ、天守としての位置づけをもたされていた本丸の鉄櫓も大破しています。現在、吉田城のあった場所は豊橋公園として整備されており、復元された鉄櫓も見ることができます。

続いて、豊橋公園の南、新吉町の**龍拈寺**（地図②）には、豊橋高等女学校動員学徒殉難之碑と題された観音像があります。戦争中、動員学徒として派遣されていた半田市の中島飛行機の工場で、昭和東南海地震に遭い命を落とした、豊橋高等女学校（現・豊橋東高校）の生徒23名、愛知実修高等女学校（現・豊橋中央高校）の生徒4名を慰霊する観音像です。**豊橋東高校**（地図③）にも、犠牲になった豊橋高等女学校の生徒の名前を記した記念碑が設置されています。



龍拈寺の観音像と豊橋東高校の記念碑

（2016.12月号参照）

豊橋東高校から国道1号を南東に5kmほど進むと、のんほいパークです。東海三県で唯一のレッサーパンダなど、動物たちに癒されながらお昼にしましょう。



高塚・伊古部の海食崖崩落（Google Earth）



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

のんほいパークを出発したら、さらに南へ進み、5kmほどで**東観音寺**（地図④）です。渥美半島の太平洋岸は、高さ数十mにもなる海食崖が形成されていますが、この崖の下の方の浜辺に、古来、伊勢神宮へとつながる伊勢街道が通っており、街道沿いに多くの集落がありました。東観音寺は、伊勢街道沿いの小松原村を治めていたお寺でしたが、宝永地震の津波により大きな被害を受け、海岸から北に約2km離れた現在の地に移転しています（2017.10月号参照）。

東観音寺からほど近い**御厨神社**（地図⑤）には、安政東海地震の津波にまつわる絵馬があります。絵馬には津波で流されながら、松の木に引っかかって助かった舟が描かれており、額にはこの舟の部材が利用されています（2014.11月号参照）。



御厨神社の絵馬

宝永地震や安政東海地震の津波では、太平洋岸の集落で大きな被害が発生し、多くの神社・寺院が海食崖の上の高台に移転しています。このあたりは地形と歴史、災害との関係を感じながらドライブルートを進んでください。

表浜街道を少し西に進むと、**高塚・伊古部の海岸**（地図⑥）です。伊古部海岸は、NHKドラマ「エール」の撮影にも使われました。こちらも地形に注目です。高塚の海岸に降りる道のあたりは安政東海地震で、伊古部の豊橋市野外学習センターのあたりは宝永地震で、それぞれ海岸沿いの海食崖が崩落した記録が残されています。Google Earthの3D画像（左下）などで見ると、実際に一部が窪んだ地形になっていることがわかります。海岸側から眺めてみましょう。

伊古部海岸のすぐ西の**ささゆりの里**（地図⑦）には、震災鎮めの石碑があります。安政東海地震の際、この場所には推定高さ 29 m にも及ぶ大津波が襲来したと言われ、地震のあと、地元の漁師が、震災が二度と起きないことを願って建てた碑である、と語り伝えられています。



震災鎮めの石碑

この後は、田原の市街地を目指します。文明 12（1480）年頃の創建と言われる**田原城**（地図⑧）は、寛文 2（1662）年の地震や貞享 3（1686）年の地震で櫓が倒壊した記録や、安政東海地震で本丸はじめ郭内の建物が大破し、多数の箇所石垣が崩れた記録が残されています。現在は、石垣などの遺構や再建された櫓などが残るのみですが、この地で大きな地震があったことを実感しましょう。

最後は蔵王山展望台です（下段参照）。地元産の食材を使った料理をいただきながら、まだ明るければ運がよければ富士山を、夕方なら夕焼けを、すっかり日が暮れていれば素敵な夜景をお楽しみください。

★ 龍宮まつり

龍宮まつりは、田原市の白谷海岸で行われる海上の安全と大漁を祈願する祭りです。江戸時代末期から行われており、戦争で一度は途絶えますが、地元の漁師たちの尽力により、昭和 44（1969）年に復活し、現在は白谷地区の伝統行事として毎年 8 月 15 日に開催されています。

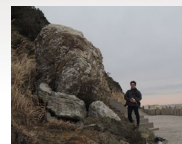
祭りでは、砂浜に砂を盛った大きな海亀が作られ、そのうえに祭壇を整えて、海の守り神の八大龍王神に、大漁と海上の安全を祈願します。砂浜での祈願が終わると、浦島太郎役の少年が模型の亀に乗り、大漁旗



渥美半島観光ビューローHPより

を掲げた漁船とともに沖へ出て、龍神にお供え物を奉納します。締めくくりは、浦島太郎が陸に戻ったところで行われる「浦島太郎と乙姫」の寸劇で、大勢の観客を和ませてくれます。（2020 年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

余裕があればささゆりの里から伊良湖岬へ進むルートもあります。表浜街道を西に、のどかな風景を楽しみながら渥美半島の先端方向へ車を走らせると、日出の石門、恋路ヶ浜など、見どころたくさんの**伊良湖岬**（地図⑨）です。「日本の灯台 50 選」にも選ばれる伊良湖岬灯台のふもとに、過去に発生した大津波で流された、津波石が残されています。津波石は重いもので推定 150 トンほどになり、地質から、沖合 700m ほどの場所から運ばれたものと推定され、この巨大な石を運ぶだけの大きな津波が、過去にこの地域を襲っていたことがわかります。（2019.12 月号参照）



伊良湖岬の津波石

今日のルートでは、2 つの城の被害、東南海地震にまつわる観音像と記念碑、太平洋岸の地形と繰り返す津波、高台への移転を物語る歴史ある神社や寺院、さらには巨大な津波石を紹介し、この地域のこれまでの地震被害について実感していただきました。今日のルートで学んだ地震の歴史を振り返り、明日からの備えにつなげましょう。

あいちの農産物

渥美アールスは、渥美半島で栽培が盛んなマスクメロンの中で、地元の農家が昭和初期から保存していた系統で、昭和 43（1968）年に豊川用水が通水したのをきっかけに栽培面積が増え、昭和 60 年代に品種を統一し、「渥美アールス」としてのブランドが確立しました。



愛知県園芸農産課 HP より

外観は、一面が細かく美しいネットで覆われ、果肉は黄緑色で果汁が多く、上品な香りと甘さが特徴で、フルーツの王様とも呼ばれています。旬は 7 月から 8 月です。

● ブレイクタイム ●

♪ 蔵王山展望台

蔵王山展望台は、360 度のパノラマを満喫できる渥美半島の東の玄関口です。展望フロアからは、空気の澄みきった日には、日本アルプスの山々や富士山まで望むことができます。

パノラマカフェでは、田原産の素材を使ったメニューとして、ビーフシチューやポークカレー、ソフトクリーム、季節のスイーツなどが楽しめます。夜には展望台のライトアップにより「蔵王山の四季」が演出され、蓄光石で彩られたテラスとスロープから夜景を眺めることができます。



渥美半島観光ビューロー HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2020 年 8 月）